

飯舘村の

花卉栽培

冷涼な気候を生かし
花卉栽培に力を注ぐ

高冷地にあり冷害などの影響を受けやすい本村では、災害の危険を分散するために農業の複合経営を推し進めていて、冷涼な気候を生かした花卉栽培にも力を入れています。

平成12年には村内の花弁の販売総額が1億円を突破。トルコギキョウ、リンドウ、グラジオオラスなどを主力品種に、その後も販売額を伸ばしていました。

産地に成長した矢先の
震災による中断

飯舘村の花弁の品質のよさが市場の評価を獲得し、また、村内の直売所にもたくさんの方が並んでいました。しかし、平成23年、震災による原発事故の影響を受け、村内で農業を継続できない事態となりました。この期間、避難先で苦労を重ねながらそれでも花卉栽培を継続した農家の努力が「いたての花」のプライドを守り続けていました。

避難指示が解除となり、農業の再生を期して、意欲ある農家への補助制度が生まれました。「もう一度村内で」と花卉農家の挑戦が始まりました。制度を活用して新規に参入する人も少しずつ増えています。栽培品種や販路も変化し、飯舘村の花弁栽培は新たなスタートを切っています。

「本気」が大事と伝えています

飯舘村農業委員会
菅野啓一 会長(比曾)



飯舘村は花卉栽培に向く土地柄です。日中と夜の気温差があることで、きれいな色が出る。山あいの気候を生かし、他の産地と重ならない出荷時期を選ぶこともできます。

新規で始める方には、農業の大変さも包み隠さず話して、本気でやらないとうまくはいかないことを伝えています。そして応援もするし、困った時には見に行ったりアドバイスをしたりもします。以前とは違って、生産体制もさまざまになっていますが、新たに産地として成長していけたらいいですね。

道の駅を彩る人気の花売り場

いたて村の道駅までい館



直売コーナーの花売り場。お盆のセールも人気。

種類が豊富なお花はまでい館のおすすめ商品です。特に春から秋にかけてはたくさんのお花を販売しています。お手頃な価格も魅力で村外から訪れるリピーターさんも多くいらっしゃいます。

道の駅までい館
庄司恵美さん(伊丹沢)



今年も出荷が始まるね。体に気をつけて。勝負の時だから。

高橋日出夫さん
(関根・松塚)

ありがとうございます。気合を入れて収穫します。

小原健太さん
(上飯樋)

(高橋さん)小原さんは勉強しているよね。どうしたら売れるかも研究している。こんなに生育がいいハウスを見ると自然と顔がほころんじゃうね。気持ちがいい。俺ももっと頑張らなくてやる気が出るね。
(小原さん)自分にとっては全てが新しいことなので、探求するのも楽しいです。(高橋さん)小原さんが花を始める時、新しくやる人がいると聞いて、菅野啓一さんの所に集まったんだよね。応援したいから。それで初めに土を耕す手伝いに来たんだけれど、その後には大風がやられてハウスが壊れてしまったんだよね。
(小原さん)振り返れば、ハウスが壊れてしまい、1棟を自分で建てる経験をしたおかげで、補修もできるようなりました。自分の成長が感じられるのもこの仕事のいいところかなと思います。サラリーマンを続けていると、そうした感覚が薄れていってしまうので、来年は、品種を選び直し工夫をして育ててみようと思っています。

小原さんのハウスにて、栽培している品種の生育状況、資材の工夫、出荷の手法など、2人の話題は尽きることがありません。
サラリーマンを辞めて就農し、昨年初めてトルコギキョウを出荷した小原さん。日々湧いてくるさまざまな疑問を携え、日出夫さんの作業小屋を訪ねたこともあったそう。「困った時に相談できる方が近くにいてくださることは大きい。経験的にも精神的にも学ぶことが多いです」と話していました。

トルコギキョウ

